

ワーク・ライフ・バランス

カジメン(家事男)



ウィザスあしやフェスタ 2014

男女共同参画社会の実現を目指し活動する団体「芦屋市男女共同参画団体協議会」は、毎月1回定例会を開き、相互の活動報告や情報交換を通しネットワークを広げています。今回は、新しいセンターで初めてのフェスタを開催します。人と人が出会い、ふれあい、共に学び、ネットワークを広げるために皆さんも参加してみませんか。

開いて 拓いて 啓いて ~つなごろう ふみだそう~

3月8日(土)午前10時~午後3時/芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

- ◆バザー 午前10時~正午/セミナー室(1階)
※収益は、例年どおりDV被害者支援のため、全額寄付します。
※事故防止のため、会場への入場制限をします。ご了承ください。
- ◆親子カフェ 午後1時~3時/会議室C・D(2階)
喫茶(コーヒー・紅茶・ジュース各100円)と、手遊び・カルタとり・折り紙コーナーで、親・子みんなでほっこりと交流しましょう!
- ◆共同制作・展示 3月8日~15日/団体交流スペース(1階)
※日曜日を除く毎日、開館時間内にご自由にご覧いただけます。
- ◆グループワークショップ ※参加無料(事前申し込み制)。詳細はセンターへ

3月11日(火)	10:00~12:00	セミナー室	おしゃべりカフェⅡ「おひとりさま」を生きる
	13:30~15:30	セミナー室	第19回公明学習会 心筋梗塞にならないために
3月13日(木)	10:00~12:00	セミナー室	お茶の間経済学習会 ジェンダーと憲法
	13:30~15:30	セミナー室	絵手紙体験会 へたでいいへたがいい心を贈ろう
3月14日(金)	11:00~12:00	セミナー室	ディベート大会 男性看護師を50%まで増やすべきだ
	10:00~12:00	会議室C	体験ワークショップ パーソナルコミュニケーション
3月15日(土)	10:30~12:00	セミナー室	朗読体験会 発表「義理情け」山本 園五郎
	13:30~15:00	セミナー室	講演 活動報告のためのプレゼンテーション演習

一時保育つき大人の読書タイム

子育て中の皆さん、毎月第3火曜日の2時間、ゆっくりとお好きな本を読んでみませんか? あなたの読書中、お子さんはウィザスあしやの保育室でお預かりします。

- 日 時 3月18日(火)・4月15日(火)・5月20日(火)
①午前10時~正午②午後1時~3時 ※①②各・先着4人
- 会 場 男女共同参画センター ウィザスあしや
- 対 象 子育て中の親(祖父母を含む)と子ども(2歳以上就学前児)
- 一時保育 午前・午後とも、先着・各4人(1人300円)〈要予約〉
- 申し込み 各月1日から、電話(TEL 38-2023)でセンターへ

編集後記

「元気」「パワフル」とよく言われます。「思うがままに生きている」から、毎日が楽しいです。妻であり母である私は、我慢して自分のことを後回しに…。その結果イライラして、子どもにあたることもありました。我慢しても、自分にも家族にもいいことはない。我慢をやめて、自分のことも優先的に考えよう! もちろん、家族は大切です。自己規制をやめて、家族に相談するようにしたら、子守をもらえたり、自由に外出できるようになったんです。(熊切)

女性相談

秘密厳守 女性相談 面接相談
無料相談・予約専用電話 TEL 38-2022
~ご相談には、予約が必要です~
■日 程 ①第1土曜日②第1~4金曜日
■時 間 ①午前10時~正午(1人50分)
②午前11時~午後4時(1人50分)
■内 容 女性が抱えるさまざまな悩み
※一時保育(無料)あり(要予約)

ウィザス No.76

平成26年3月発行(春号)

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0065 芦屋市公光町5-8(公光分庁舎・北館1階)
TEL.0797-38-2023 / FAX.0797-38-2175
Eメール josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開 館:月曜日~土曜日・午前9時~午後5時30分
■休 館:日曜日・祝日・年末年始(12月28日~1月4日)
ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/centerwithus.html>



ウィザス

「ウィザス」は、ウィズアス=with us "共に生きる一男女共生社会"の理念を表しています。

特集

「カジメン」のススメ

今日から始めよう!
「カジメン(家事男)プロジェクト」

女性ニュース ●●● 「改正DV防止法」が施行

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(通称DV防止法)」が、昨年一部改正され、平成二十六年一月三日に施行されました。改正DV防止法では、夫婦間だけでなく、同居中またはかつて同居していた交際相手から暴力を受けた場合も、保護の対象となっています。また、この改正法では、被害者の生命または身体に重大な危害を受けおそれる場合における「保護命令制度」の対象に、生活の本拠を共にする交際相手からの暴力が適用されます。昨年改正・施行された「ストーカー規制法」では、「つきまとい等」に対する禁止命令や警告について、被害者の居住地だけでなく、加害者の居住地や違法行為のあった場所の警察、公安委員会からも出せるようになったことと対応が強化され、少しずつ対策が

進展しています。 ■「振り込め詐欺」や「個人情報の詐取」に「注意を!」 また、本年四月から消費税率が8%へ引き上げられるのに伴い、暫定的・臨時的な措置として、所得の低いかたへの臨時福祉給付金支給が検討されていますが、保護命令が出ている等の一定の条件を満たしていれば、DV被害者本人が支給対象になる場合があります。 なお、現時点で市町村や厚生労働省などが住民の皆さんの世帯構成や銀行口座の番号などの個人情報を照会することはありません。「臨時福祉給付金」をよそおった「振り込め詐欺」や「個人情報の詐取」には、くれぐれも注意ください。




絵 A.S



「カジメン」のススめ

今日から始めよう！ 「カジメンプロジェクト」

■ カジメン(家事男)とは、家事を楽しみ自分自身も成長する男性のこと。
 ■ または、将来そんな人生を送ろうと考えている男性のこと。
 ■ 共働き世帯の増加、晩婚化や少子化が進む現在、男性が家事をする機会が確実に増えてきています。カジメンがもっと多くなれば、妻である女性の生き方や子どもたちの可能性、家族のあり方も大きく変わっていくはず。そして、社会全体ももっと豊かに成長していくはずです。
 ■ 家事の楽しさ・奥深さを追求する「カジメンプロジェクト」を、あなたも今日から始めてみませんか？



木下 栄一 (きのした えいいち) 氏
 大学職員。1968年生まれ。45歳。NPO法人ファザーリング・ジャパン関西理事。
 現在、10歳年下でパート勤務の妻と、8歳・4歳女児との4人家族。と、柴犬(メス)。
 父親としてのモットーは、「子どもの好奇心を揺さぶり、可能性を死守し、終生」応援団に徹する」という「イクメン」ババ。



親子で楽しんだ「イクメン講座」

2月8日(土)、「イクメン講座～ババと作って遊ぼう！身近なものが大変身！？」に木下栄一氏を講師に招き、4組11人の家族が参加したにぎやかな講座を実施しました。木下氏が「今日作っていただいたものを家で作り、家族で遊べる時間を作って、楽しんでいただくことが目的」としたとおり、家族で「作って・遊んで・楽しめる工作」が多く、受講していた家族みんなで楽しく遊びました。ストローで笛、トイレットペーパーの芯と新聞紙で大砲…など、身近にあるものを使って作り、保護者のお手伝いもありましたが、子どもでも作れる内容になっていました。また、氏が「男心をくすぶる工作」と言っていたように、熱心に工作に打ち込むババも多いように思いました。帰り際、子どもたちが自分で作ったものを持ちながら、氏に「ありがとうございました」と笑顔で言って帰る姿を見ても、皆さんの満足度は高かったように思います。今回の講座で作ったものをまた家族みんなで作って遊び、イクメンの楽しさを感じてもらおうと同時に、家族団らの時間を楽しんでいたいただければと願っています。


●NPO法人ファザーリング・ジャパン関西(FJK)とは…
 「笑ってるババがええやん！」を合言葉に、個性豊かな子育て現役のババたちが、笑っているババを増やし、子育てに優しい、楽しい社会にするために活動しています。
 ババが子育てを主体的に楽しめば、子どもの育つ環境が豊かになり、ママが楽になります。そして、笑っている家族になります。
 ババ自身も子育てを通して、仕事や地域で役立つ能力を身につけることができます。FJKでは活動を通して、さまざまなババのライフスタイル、家族のカタチ、これからの社会のあり方を提案します。
 ポケとツッコミの中で育まれた、関西人のコミュニケーション能力は、実は子育てにピッタリなんです。
 関西のババさんたち、一緒にファザーリングしませんか！？



カジメン(家事男)アンケート

25歳～39歳の男女495人を対象に、インターネットで行ったアンケート調査(2012年)をご紹介します。

男の本音 ●そもそも家事は好き？



男性に、本音を聞いてみました。「嫌い」または「嫌いなほう」と答えた人が36.4%と、「好き・好きなほう」と答えた人31.4%を若干上回る結果となりました。しかし、「どちらでもない」との回答も多く、これらの人はきっかけ次第で「好き・好きなほう」となる可能性も秘めているようです。

●パートナーの家事について、不満は？

女の本音		男の本音	
1位	もっとたくさんやってほしい 25.9%	1位	ていねいにやってほしい 15.0%
2位	もっとこまめにやってほしい 16.3%	2位	効率よくやってほしい 13.8%
3位	ていねいにやってほしい 14.8%	3位	もっとたくさんやってほしい 7.5%

直接は言いにくいけど、パートナーの家事に不満を持っている人も多そうです。特に女性は、もっと男性に家事に協力してもらいたいと思っています。

●なるべくならやりたくない苦手な家事は？

女の本音		男の本音	
1位	キッチン周りの掃除 38.4%	1位	特になし 31.4%
2位	お風呂掃除 36.7%	2位	トイレ掃除 28.7%
3位	トイレ掃除 35.9%	3位	アイロンがけ 22.5%

男性の苦手なアイロンがけについては、正しいかけ方が知りたいという声も多くあったそうです。

《その他の「家事にまつわる調査結果」に見る新事実》

●家事における夫婦喧嘩の原因トップ3は？
 パナソニック「共働き夫婦の家事・食卓についての調査」によると、1位は「掃除」、次いで「食器洗い」「料理」となっています。特に夕食後の食器洗いは、どちらがやるかで喧嘩の原因になりやすいようです。

●データが証明！これからは家事男がモテる！
 家事決定実行委員会が行った「家事力調査」によると、「男性が家事をすることはカッコイイと思う」と、約6割の女性が回答。特に、若い世代ほど、そう感じる人が多いという結果になっています。

●夫の家事率と子どもの出生率の意外な関係
 厚生労働省の調査によると、夫の休日の家事・育児に参加する時間が長いほど、第2子以降の出生率が高いという結果となっています。夫が協力的だと、妻も安心して子どもが生まれるということでしょう。

●他国の男性に比べ、日本人男性は家事をしなすぎ！
 6歳未満の子どもを持つ男性の1日の家事・育児時間は、アメリカやドイツは約3時間、日本は約1時間で、日本人男性は世界基準で見ると、明らかに家事をしていない結果となっています。(厚生労働省調べ)

しかし、結婚後の家事はお互い生まれ育ってきた文化が違う訳です。だから、やり方も考え方も違うのが当然だということも理解し、言い方に配慮しながら話し合っ、家事を分担していく必要があります。高度経済成長の時代に結婚生活を送った親世代は、夫は外で働き、妻は家事一切を担うべきだと、心のどこかで願っているのかもしれない。現代は共働き世帯が増え、得ない時代なので、家事分担は必然だということも、理解してほしいと思います。自分のことも自分でできない



木下氏に、ウィザス編集委員とセンター職員が、「男性と家事」についてのお話をお聞きしました。

「私も、子どものころは、結婚してからは、お互い生まれ育ってきた文化が違う訳です。だから、やり方も考え方も違うのが当然だということも理解し、言い方に配慮しながら話し合っ、家事を分担していく必要があります。高度経済成長の時代に結婚生活を送った親世代は、夫は外で働き、妻は家事一切を担うべきだと、心のどこかで願っているのかもしれない。現代は共働き世帯が増え、得ない時代なので、家事分担は必然だということも、理解してほしいと思います。自分のことも自分でできない

「料理」ともって、男性の多くは「食事を作る」というクリエイティブな一部分だけを考えているケースが多い。これが女性だと、一週間や月間の献立を考えながら、買い物に行った先で旬な食材や安い食材があれば変更したり、下準備をし、料理をし、後片付けをするまでを、食事を作るための一連の家事だと考える。また、家事の量は生涯一定ではないことも知っておくべきでしょう。若くて単身のころ、結婚した後、子どもが生まれた後、介護が必要になったとき、高齢で単身になった後、それぞれに家事の質・量とも変わっていくのです。

「カジメン」でも「イクメン」でも
 ファザーリング・ジャパンに入るきっかけは、妻が創設者の安藤さんの話を聞いて、その妻に勧められた「パパ料理講座」に参加したり、「育児を楽しもう」といった小崎さんの講座で話を聞いたたり、父と子どもだけの一泊二日のキャンプに参加したりしたことですね。特に父子キャンプは、貴重な経験になりました。娘にとっても、母親と離れた父親だけの初の一泊二日ですからね。私は、子どものころは「鍵っ子」だったので、夕方にお腹がすいたら

自分で簡単なものを作って食べていましたし、片付けは得意でしたし、親父もやっていたので、家事分担に抵抗はなかったですね。結婚後、妻のつわりがひどくて入院したときなど、掃除洗濯や食事も作っていましたが、そのうちに止めた。それは洗濯物の干し方やたたみ方が違うという話になって、何となく気まずくなったことがあったのです。それ以後、もっぱら片付け中心にやることにしました。女性の皆さんにお願したいのですが、干し方やたたみ方が多少気に入らなくても、男性に家事を分担させるには「まず、ありがとう」と言ってくれたいです。露骨にダメだしされると、へそを曲げてしまいたくなる。遠慮なく聞いてほしいです。

◆家事能力の芽を摘んだのは…

「男性の家事能力を伸ばす芽を摘むのは、案外母であり、妻であるかも」という言葉に、ドキリ。
 木下さんと同年代の私は、家事手伝いは姉妹のみで兄弟はしないという家庭で育ったため、結婚当初は夫が家事を手伝ってくれることにほとんど罪悪感を感じるほどでした。善ながらの役割分担に縛られているのは女性も同じかも知れないと、お話を聞きながら考え込んでしまいました。これからの時代、自然に自分でできることは自分でする「カジメン」が増えることを期待しています。

◆「遠慮より配慮を」の言葉にー

「家事・育児をこなすとビジネススキルがアップする」というのは、まさにその通りだと思いました。夫婦がコミュニケーションを取りながら、遠慮ではなく相手に配慮しつつ家事・育児を協力してこなすのは、人間的な深みができ、ひと回りもふた回りも成長するきっかけになるのではないのでしょうか。相手に遠慮をして、家事・育児の協力を求めなかった自分の姿を振り返り、相手の家事能力の成長を阻んでしまったかもしれないと思っています。

◆わが「カジメン」への道

私の父と祖父は積極的に家事をこなす、まさしく「カジメン」です。昔段からその姿を見ていたので、男性の家事参加は当たり前だと思っていました。今回、そういった姿を自分の子どもに見せるのもカジメン普及と聞いて、なるほど！…と。1人、2人、もっと？今回明らかになった、(自分自身の)カジメンプロジェクト。ただ、市議員の立場として、いかに「カジメン」を普及させるのか、まだまだ考えなければならぬ課題ですね。